

A0502-01	緊急時の対応は冷静に		
本文	突然襲うトラブル、事故などの緊急事態には冷静に適切な対応ができるよう準備しておくこと		
リスクの種類	災害の拡大、人身災害	関連目次・章節	
理由(何故)	緊急事態に冷静に対処し、的確に判断し適切な対応がとれるかどうかにより、事態を沈静化できるか、あるいは、拡大したり人身災害に発展するか、大きな分岐となる。 対応手順を決め、手順に基づく訓練が実施されてない場合は冷静に対応することが難しい		
方策	1) プロセス技術教育により、どのような緊急事態が想定されるか、それぞれの緊急事態にプロセスがどう応答するべきかを習得させる。 2) OJT による運転技能の教育により、異常現象における対処法を習得させる 3) 緊急時の作業マニュアルを作成し、定期的に特定の異常現象を想定した緊急時の対応訓練を行う 4) リスクアセスメント、危険予知の訓練を行い、危険の性質、危険の度合いを習得させる		
事故例	平常運転中、突然の停電、圧力、温度、流量の急変動などの緊急事態が発生した場合に、原因がわからないための焦燥感、判断ミス、過緊張状態による判断や行動の遅れなどによって適切な対応と処置ができず、トラブルや小事故が拡大した例は多い。 1) エチレン製造装置において、計装用空気の遮断で緊急停止を行い、その後空気が復旧したため立上準備に入ったところ、アセチレン水添反応塔で暴走反応を起こし、配管からガス漏れ爆発炎上した。立ち上げ時アセチレン水添反応塔へ水素を供給し、残存エチレンの水添が起り暴走したもの。(死者1名、直接被害額 25 億円) 2) ポリプロピレン製造装置において、停電事故が発生し、このため緊急シャットダウンを行っていたところ、第六プロピレン重合槽の下部バルブが何らかの理由により開き、大量のガスが噴出し、着火、爆発に至り、死亡4名、重軽傷者9名という大事故となった。誤操作が直接の原因と考えられている。		
法的参考事項			
備考	事故例: 1) 失敗知識データベース、失敗百選 2) 1973 年第 71 国会公害対策及び環境保全対策委員会議録より抜粋		